

## 5月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

### 沖縄群島

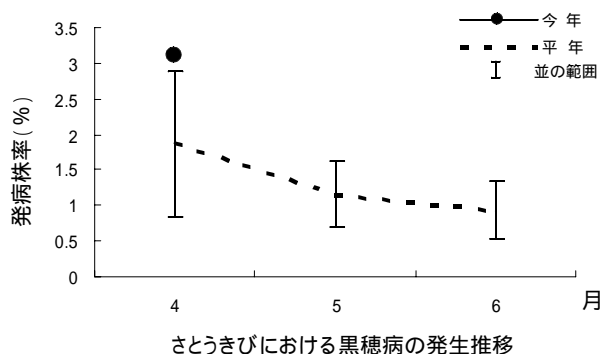
#### 1 さとうきび

##### (1) 黒穂病

発生程度: やや多

予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、発病株率は3.1%（前年0.6%、平年1.9%）と平年よりやや高かった。
- 感受性品種（農林9号）の株出圃場で一部多発生が見られた。



#### 防除上注意すべき事項

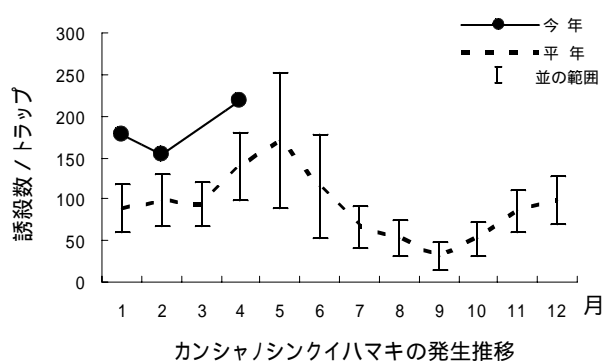
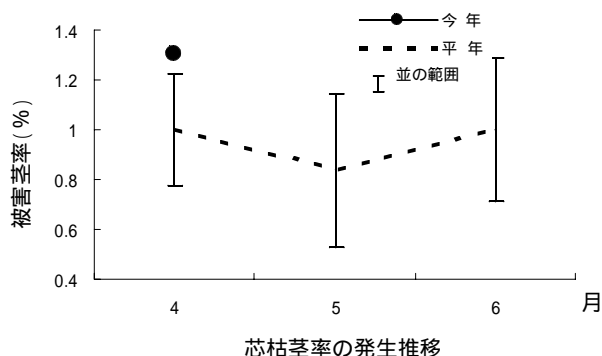
- 発病株は鞭状体の出現前に抜き取り焼却する。
- 特に株出圃場では今後の発生動向に注意し、早めに抜き取り処分する。
- 鞭状体の出現した茎は孢子の飛散を防ぐために、ビニール袋を被せて抜き取り処分する。
- 発生圃場や隣接圃場から採苗しない。
- 多発生圃場や放棄圃場は早急に更新する。
- 抵抗性品種を植え付けるようにする。
- 苗の薬剤浸漬処理を行う。

##### (2) メイチュウ類

発生程度: やや多

予報の根拠

- 4月の芯枯茎率は1.3%（前年1.2%、平年1.0%）と平年よりやや高かった。
- 4月のカンシャノシンクイハマキの性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は219頭（前年167頭、平年139頭）とやや多かった。



#### 防除上注意すべき事項

- 加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- 植え付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

## 2 マンゴー

着果～果実肥大期の病害虫防除対策について

- 4月下旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマ、マンゴーツメハダニ、コシロモンドクガ、マンゴーハフクレタマバエの発生が認められたが、いずれの種も例年より発生がかなり少なかった。
- 不必要な新葉等は摘葉し、ビニール袋に密閉収容し、施設外へ持ち出し処分する。
- 今後、気温の上昇とともに各病害虫とも増加すると予想されることから、早期発見・防除に努める。

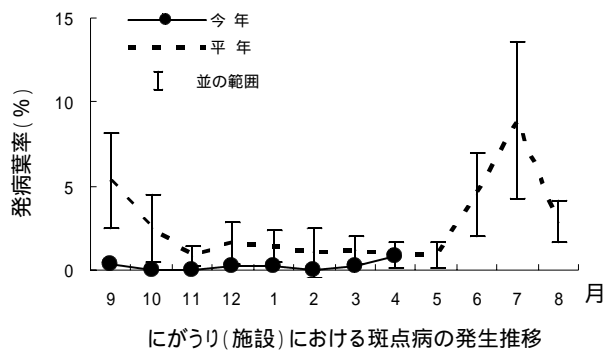
## 3 にがうり(施設)

### (1) 斑点病

発生程度： 並

予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、発病葉率は0.8%(前年0%、平年0.9%)と平年並であった。
- 多発生圃場が一部見られた。



防除上注意すべき事項

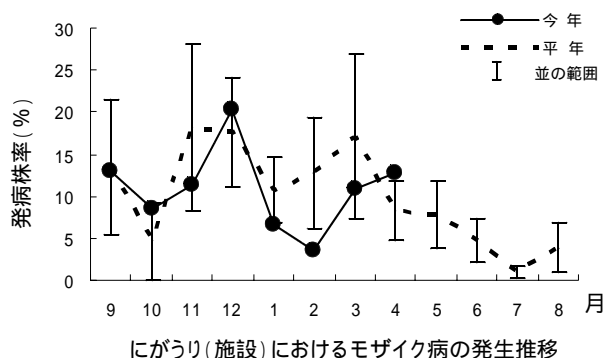
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 老葉や病葉を除去し透光通風を良くする。

### (2) モザイク病

発生程度： やや多

予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、発病株率は12.8%(前年14.9%、平年8.2%)と平年よりやや高かった。
- 本病の媒介虫であるアブラムシ類の発生はみられなかった。



防除上注意すべき事項

- 圃場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- アブラムシ類の飛来侵入を防ぐため、入口、天窓、側窓には防虫ネット等を張る。
- 発病株は抜き取り、圃場外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので発病株のある棟の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

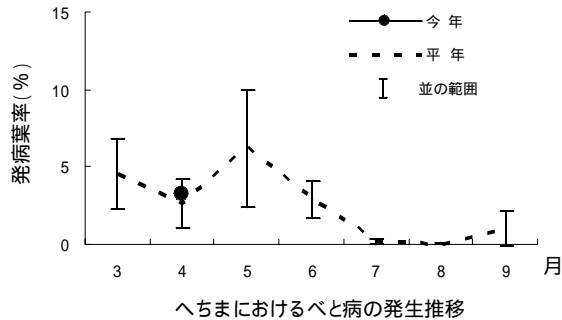
#### 4 へちま

##### (1) べと病

発生程度: 並

予報の根拠

- 4月中・下旬の調査の結果、発病葉率は3.3% (前年0%、平年2.6%)と平年並であった。
- 気象予報によると降水量は並の見込み。



##### 防除上注意すべき事項

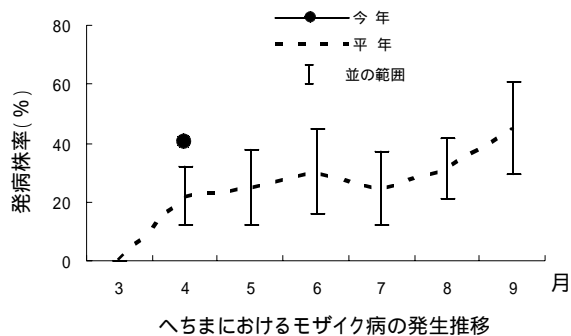
- 雨滴等による病原菌の跳ね上りを防止するため敷草かビニールマルチを行う。
- 排水、通風をよくする。
- 肥料切れしないよう適正な施肥を行う。
- ハモグリバエ類など害虫の食害痕から発病しやすいので害虫の防除を行う。

##### (2) モザイク病

発生程度: やや多

予報の根拠

- 4月中・下旬の調査の結果、発病株率は40.5% (前年3.2%、平年21.9%)と平年よりやや高かった。
- 本病の媒介虫であるアブラムシ類の発生はみられなかった。



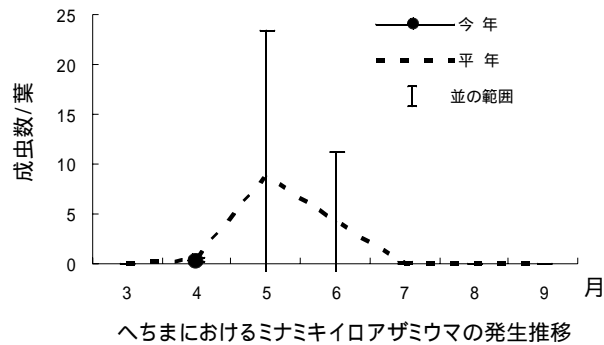
##### 防除上注意すべき事項

- 圃場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- 本病の発生源となるウリ科作物は栽培終了後に早めに片づける。
- 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

(3) ミナミキイロアザミウマ

発生程度： 並  
予報の根拠

4月中・下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.30頭(前年0.08頭、平年0.42頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

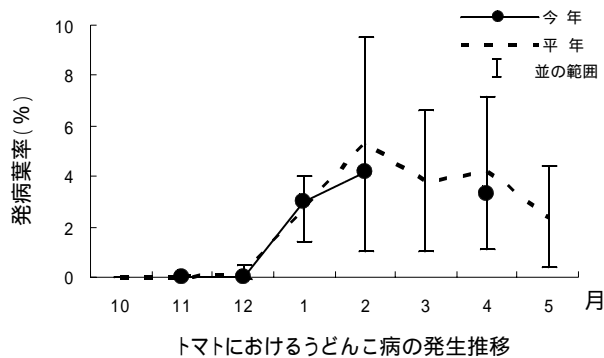
- a 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- b 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一同系統薬剤の連用を避ける。

5 トマト(施設)

(1) うどんこ病

発生程度： 並  
予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病葉率は3.3%(前年1.6%、平年4.2%)と平年並であった。



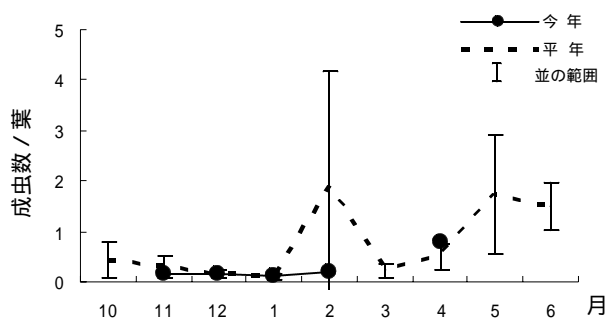
防除上注意すべき事項

- a 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- b 老葉や病葉は発生源となるので、施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。

## (2) シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並  
予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.78頭(前年0.22頭、平年0.49頭)と平年よりやや多かった。



トマトにおけるシルバーリーフコナジラミの発生推移

### 防除上注意すべき事項

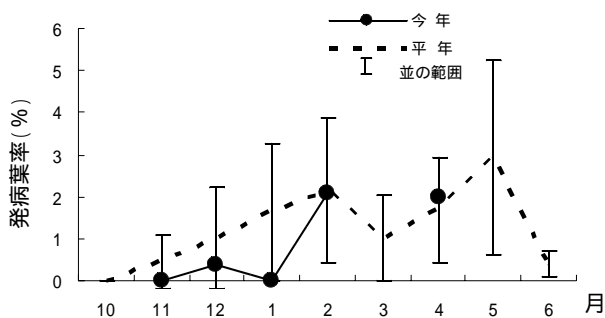
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- コナジラミの飛来侵入を防ぐため、施設の入口、天窓、側窓には防虫ネット等を張る。
- 黄色粘着テープ等による早期発見に努める。
- 多くの薬剤に抵抗性を示すため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 多発すると、果実の着色異常の原因となる。

## 6 ピーマン(施設)

### (1) うどんこ病

発生程度： 並  
予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病葉率は2.0%(前年6.6%、平年1.7%)と平年並であった。



ピーマンにおけるうどんこ病の発生推移

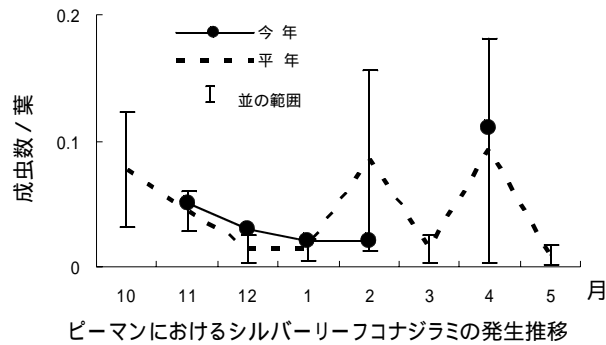
### 防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。
- 多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し、早期発見、早期防除に努める。

(2) シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並  
予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.11頭(前年0.01頭、平年0.09頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- コナジラミの飛来侵入を防ぐため、施設の入口、天窓、側窓には防虫ネット等を張る。
- 黄色粘着テープ等による早期発見に努める。
- 多くの薬剤に抵抗性を示すため、同一同系統薬剤の連用を避ける。